

平成二十九年 度 一 般 入 学 試 験

# 国 語 科 問 題 (A 日 程)

特 別 進 学 ・ 外 国 語 コ ー ス

第 一 問 ～ 第 二 問 独 自 問 題 ( 四 十 分 ・ 百 点 )

注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、この問題冊子は、十二ページあります。
- 三、試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 四、答は問題の指示にしたがって、解答用紙(マークシート)に記入しなさい。
- 五、試験終了後、この問題冊子も集めますので下に受験番号を記入しなさい。

受験番号

A

国

独 自  
特 ・ 外

第一問 次の文章を読んで、あとの問一〜問七に答えなさい。

江戸時代の図絵を見ると、まちなかでいろんなことが起きているように描かれている。道端でも広場でも神社でも、会話したり物を売ったり三味線しゃみせんを奏でたりしている。まちが賑わっているし、みんな楽しそうだ。若カンの誇張はあるだろうが、事実とまったく違う風景を描くわけにもいかないだろうから、ある程度は実際に賑わっていたのだろう。各地の図絵を見る限り、江戸の市街地だけでなく、大坂や京都、東海道の宿場町なども同様に多くの人がまちの屋外空間に出てきて、いろんなことをしていたはずだ。

それに比べて現在の地方都市は寂しい。特にまちの屋外空間が寂しい。祭りが行われていない限りは、屋外空間で物を販売したり、立ち話をしたり、音楽を演奏したりという風景を見ることはほとんどない。特に戦後は、こうした行為のほとんどが屋内空間に取り込まれていくことになる。屋外に立っていた市が常設の市場になり、スーパーマーケットになり、ショッピングセンターになる。音楽も室内で演奏されるようになり、井戸端会議いどばたも会議室で行われるようになる。天候や気温に左右されず、常に同じ状態が保たれる室内空間が誕生すると、まちの屋外空間で行われていた活動はほとんど室内に逃げ込むことになる。その意味では、エアコンの登場がまちを寂しくしたといえるかもしれない。⋈ A ⋈、夏のエアコンは室内空間を快適にするのみならず、廃熱を屋外空間に出してヒートアイランドを形成する。これではまち

の屋外空間で活動したい人がいなくなるわけだ。

もうひとつ注目しておきたいのは、屋外空間を使いこなしていたコミュニティの弱体化である。僕は仕事上、コミュニティという言葉をよく使うので、便宜上「地縁型コミュニティ」と「テーマ型コミュニティ」の2種類に分類している。分けようと思えばいくらにでも分かれるのだが、とりあえずこのふたつに分けておくと話が伝わりやすい。

地縁型コミュニティというのは、その場所に住むことによって生まれる縁でつながったコミュニティである。代表的な地縁型コミュニティは、自治会、町内会、商店街組合、老人クラブ、婦人会、子ども会などが含まれる。こうした、かつてはまちの屋外空間でさまざまな活動を展開していた地縁型のコミュニティが、ジョウ々にその力をなくしていったのも戦後である。自治会の加入率が下がり、子ども会に入る人が減り、婦人会や老人会で活動する人も少なくなった。こうした人たちがまちなかで行っていた祭りや縁日やイベントなどが少なくなるとともに、まちなかで会って立ち話をするという風景も見られなくなってきた。まちの屋外空間が使われなくなってきた背景には、エアコンの普及普及と地縁型コミュニティの弱体化があるといえよう。

ところがデザイナー（建築家）はそう考えない。広場が人に使われなくなったのは、そのデザインが古びたからだと考ええる。時代に合ったデザインに変えれば、また多くの人たちが広場を使うはずだと考える。そして斬新な広場をデザインする。戦後、各地にさまざまなデザインの広場がつくられて

きたが、その多くがほとんど人に利用されないまま、いまも残されている。

広場や道路に人が集わなくなったのはデザインが古びたからではない。屋外空間でやっていたことが室内でできるようになったからであり、屋外空間を使いこなしていた地縁型コミュニティがその力を弱めたからである。すでに子ども会が成立しなくなっている地域は多い。自治会の活動がほとんど停止している地域も多い。こうした地域に斬新な広場だけをつくっても、「まちの活性化」なるものが達成されるとは思えない。ところが、ランドスケープデザイナーとして広場や公園を設計していた時期の僕は、「人が集う広場のデザインはどうあるべきか」ということを考えていた。細かいところまでこだわって丁寧にデザインすれば、人は必ずその空間を訪れるはずだ、という信念まで持っていた。まちの構造的な変化に気づいていなかったといえよう。汗顔の至りである。

人口が増えていた時代ならそれでよかったのかもしれない。子どもが増える時代には、公園をつくれれば多くの子どもが遊びに来たし、自治会や婦人会に加入する人が増えている時代には広場でいろいろなことが行われたことだろう。公園や広場をきっちりデザインすれば、まちにコウ献することができたはずだ。ところが時代は変わった。いい空間をつくるだけで人々が集うということがほとんどなくなった。▲ B ▼

重要なのは、弱体化した地縁型コミュニティの代わりにどんなコミュニティが屋外空間を使いこなすのか、ということ

ある。まちを賑やかにするためには、斬新な広場のデザインが必要なのではなく、斬新な広場のマネジメントが必要なのである。

屋外空間を使いこなす主体については、地縁型コミュニティに代わってテーマ型コミュニティを集める必要がある。テーマ型コミュニティは同じテーマに興味を持つ人たちのつながりである。福祉や環境や趣味などのテーマに応じて集まる人たちがつくるコミュニティだ。将棋サークル、テニスサークルのように、サークル活動として認識されるようなコミュニティも多い。この種のコミュニティに属する人たちは、必ずしもその地域に住んでいる必要はない。興味さえ合えば、遠く離れたところに住んでもテーマ型コミュニティに所属することは可能だ。クラブ、サークル、NPO法人など、さまざまなコミュニティの形態をとることになるが、こうした人たちがまちの屋外空間を使いこなすための仕組みをつくるのが重要になる。

ところが、これまでまちの空間は誰でも使ってもいいとされてきたわけではない。広場にも道路にも河川にも公園にも、それぞれの空間を管理する法律や条令があり、してはならないことがたくさん決められている。▲ C ▼、放っておけばテーマ型コミュニティがまちの屋外空間で活動し始めるかというところ、そうならない場合のほうが多いだろう。

そこにマネジメントが必要になる。先の地縁型コミュニティだけでなく、テーマ型コミュニティにもまちの屋外空間

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

を使いこなしてもらいたいこと、どこに問い合わせればそれが可能になるのか、どんな活動が奨励されるのか、などを明示する必要がある。テーマ型コミュニティは活動に際しいくつかの課題を抱えていることが多い。自分たちの活動を広報するためのチラシやウェブサイトをつくるのが難しい、活動場所が有料で活動のたびに費用がかかっている、発表の場が少ないことで活動のモチベーションが上げられない、新しいメンバーをツノるための場が少ないことなど。こうした課題を解決しつつ、ほかの活動団体と知り合ったり、協力して新しい活動が展開できるようになったりするきっかけをつくることが重要である。

(山崎 亮『コミュニティデザインの時代』(中公新書)より。)

[注]

- ※ 井戸端会議⇨主婦たちが家事の合間に集まってするおしゃべりのこと。
- ※ ヒートアイランド⇨郊外に比べ、都市部ほど気温が高くなる現象のこと。
- ※ ランドスケープデザイナー⇨その土地が持つ要素を基盤にして、都市空間や造園空間、建築などを設計する職業のこと。

問一

傍線部 a、b、c、d、e のカタカナを漢字に改めたときに最も適切なものを、あとの①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- |         |   |     |     |     |     |
|---------|---|-----|-----|-----|-----|
| a 「カン」  | ⇨ | ① 感 | ② 観 | ③ 干 | ④ 関 |
| b 「ジョ」  | ⇨ | ① 序 | ② 徐 | ③ 助 | ④ 除 |
| c 「キュウ」 | ⇨ | ① 給 | ② 急 | ③ 求 | ④ 及 |
| d 「コウ」  | ⇨ | ① 貢 | ② 功 | ③ 効 | ④ 向 |
| e 「ツノ」  | ⇨ | ① 慕 | ② 簿 | ③ 暮 | ④ 募 |

問二

傍線部 1 「特にまちの屋外空間が寂しい」とありますが、このようになったことの理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 戦後に様々な規制が生まれ、屋外では以前のように個人や団体が気軽に活動できず、室内空間に移動せざるを得なかったから。
- ② ショッピングセンターや会議室など、深夜まで利用できる室内空間の方が、多忙な現代人のライフスタイルに合っているから。
- ③ 室内空間は便利で確実な活動の場を提供してくれるのに対し、屋外空間は天候や気温によって活動を制限されるため不便だから。
- ④ エアコンの廃熱によるヒートアイランド現象が、まちの屋外空間の活動を停止させ、人々を室内空間に閉じ込めてしまったから。

問三 空欄△ A ∨ ∽ △ C ∨ の中に入る語句の組み

合わせとして、最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① A さらに B むしろ C したがって
- ② A さらに B したがって C むしろ
- ③ A したがって B ところが C むしろ
- ④ A したがって B むしろ C さらに

問四 傍線部2「汗顔の至り」とは「非常に恥じ入るこ

と」という意味ですが、筆者はどのようにしてそのような心情を抱いたのですか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 広場に人が集わなくなったことを、かつて筆者は古びたデザインのせいだと勝手に思っており、地域社会が本当に求めているのは室内空間だけだということを理解しなかったから。
- ② 広場に人が集わなくなったことを、かつて筆者はデザインの問題で解決すると単純に思っており、そこに地域社会の弱体化という本質的な問題が存在することに気づかなかったから。

③ 広場に人が集わなくなったことを、かつて筆者は斬

新なデザインのせいだと思い込んでおり、そこに住む地域の住民たちの使いやすさという構造上の視点を持ち合わせてなかったから。

④ 広場に人が集わなくなったことを、かつて筆者はデザインの丁寧さで解決したいと願っており、新たに空間を整備する予算を確保できない地域の事情に意識が至っていなかったから。

問五 傍線部3「斬新な広場のマネジメント」とはどうい

うことですか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① まちを活性化するために、かつての斬新なデザインを現代風に使いやすく改修することで、地域の沢山の人が楽しめるように計画すること。
- ② まちを豊かにするために、その地域以外のコミュニティにまちの屋外空間を提供する代わりに、場所の使用料を徴収して経済的利益を得ること。
- ③ まちを魅力的にするために、その地域の人だけでなく目的を持ったテーマ型コミュニティに参加する人を誘致し、自由に活動を行わせること。
- ④ まちを賑やかにするために、その地域以外のコミュニティを呼び込み、さらにその人たちがまちの屋外空間を利用するための仕組みを作ること。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

## 問六

傍線部 4 「そうならない場合のほうが多いだろう」とありますが、その理由の説明として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① これまでまちの空間はそこに住んでいる地域の人だけが利用する決まりだったため、地域外の人で構成されるテーマ型コミュニティの人たちにはその資格がないから。
- ② テーマ型コミュニティの人たちはそのまちに住んでいない場合が多く、交通費や使用料がかかるため、経済的支援がなければ、実際にまちで活動するのは難しいから。
- ③ 同じテーマに興味を持つ人で構成されるテーマ型コミュニティの人たちは、まちがテーマを明示して呼びかけない限り、そのまちでわざわざ活動する必要がないから。
- ④ 場所を限定しないで活動するテーマ型コミュニティの人たちは、自分たちの活動がそのまちでできるのかどうか、どうやって確認したらよいかなどを知らないから。

## 問七

本文の表現の特徴の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「～そうだ」「～はずだ」「～わけだ」と言い切りの口調を効果的に使用し、文章を引き締めている。
- ② 江戸時代の市街地と現在の地方都市のまちのあり方を、歴史的な考証を交えて論理的に説明している。
- ③ 「コミュニティ」という言葉を、具体例を挙げるなどして、読者が理解しやすいように工夫している。
- ④ 「僕」という一人称を文章に明記することで、筆者は主張が自分独自のものであることを示している。

第二問 次の文章を読んで、あとの問一～問七に答えなさい。

ふたごの姉妹の小春と日和（8歳）は習っていたタップダンスの発表会がきっかけでテレビコマーシャルに出演する。それが好評だったので二人をスカウトして子役か歌手デビューをもくろむ芸能プロダクションまで出てきた。コマーシャル撮影時に指導してくれた桜井先生が二人をミュージカルの映画（『パリの恋人』『雨に唄えば』）に誘う。

映画館を出たときには、三時半を過ぎていた。

私たちは池袋の駅前の喫茶店に入り、ホットケーキやらナポリタンやらを注文した。思えば、お菓子は口にしていないの、ちゃんとした昼食は食べ損ねていたのだ。でも、映画を観ている間は、空腹はほとんど感じなかった。タップダンスを踊っているときもそうだけれど、何かに夢中になっているときは、お腹が空いても気がつかない。

小春はちっちゃな銀色のポットに入ったメープルシロップを、バターがとろりと溶けかかったホットケーキにたっぷりとかけ、大きな一切れを頬張りながら、

「あー。もうサイコーだったよ」と言った。

私も輪切りのレモンが浮かんだコーラをごくごく飲んで喉をうるおし、まくしたてた。

「うう。あれがアステアなんだね？ 何か、すごかった。あの人、天才だよな？ どうして、あんなふうに踊れるんだ

ろう？ オードリー・ヘップバーンも可愛かった。お洋服のセンスがすんごくいいんだね。ジーン・ケリーもかっこいい。めっちゃくちゃ喜びました。『雨に唄えば』って素敵な歌だよ。あたしもあの曲で踊りたい。先生、今度のレッスンで『雨に唄えば』やって」

桜井先生は、ナポリタンの上に薄黄色い小山ができるほどに粉チーズを大量に振りかけ、私たちのお喋りに、ときおりうん、とか、ああ、とか気の相槌を打ちつつ速やかに食事を終えて、紙ナプキンで口を拭うと、

「来てよかっただろ？」と言った。

小春と私は口々に、うん、よかった、ありがとう先生、と答えた。

「俺さ、小春と日和には、どうしても観せたかったんだよ。どうしてか、わかるだろ？」

私たちはうなずいた。わからなかったけれど、わかる気がした。

「俺の場合は、アステアとかジーン・ケリーのダンスを観ると、正直言って、俺には才能がないなあと思って、やめちゃういたくなるんだけどさ。それでいて、同時に、ダンスやってよかったなあと思ったりもするんだよ。んで、俺はこれから先もずっと、一生、ダンスをやるんだろうか、どうなんだろうか、とちょっと考えさせられたりする。まあ、好きだからやってきたわけだし、でも、好きだからと言って楽しいことばかりじゃないし、変に無理もしたくないし、やれるう

（答はすべて解答用紙に記入しなさい）

ちにめいっぱいやって、やれなくなったら潔くやめよう、そのくらいの感じなんだけどさ」

先生はウェイトレスを呼び止めて、コーヒーをオーダーした。「小春も日和も、もしかしたら大人の言ってることってよくわかんないって思うことがあるかもしれないけど、本当は、それはきみたちが子どもだからわかんないわけじゃなくて、他人だからわかんないだけなんじゃないかなあ。だから、今、俺が言ってることも、これから言うこともよくわかんないところがあるかもしれないけど、まあ、あんまり気にしないで聞くだけ聞いてくれたらいいから」

小春と私は再びうなずいた。でも、先生は黙りこんでしまったので、仕方なく冷めかかったホットケーキの残りを口に入れた。そのうち、コーヒーも運ばれてきて、先生はミルクを少し垂らして一口啜り、

「アステアなんかはさ、やっぱ、踊るのが当たり前、踊るのが日常って感じで、それを人に観てもらおうっていうのも、ごくごく自然なことだったんだろうな。何のために踊るのか、なんてことはさ、あの人の場合、考えないで済んだんじゃないかな？ 自分のために踊るのも、誰か人のために踊るのもアステアにとっては同じことだったんじゃないかって気がするんだよな。そんなことない？」

<sup>3</sup> 私たちに問いかけているようでいて、独り言みたいな物言いだっただけだ。

「小春と日和はさ、プロのダンサーになりたいと思ってるの？」

小春も私も何とも答えなかった。

「まあ、今だってプロって言えば、プロなわけだもんな。実際にコマージュシャルに出て、人にダンスを見せて稼いだんだから。あのコマージュシャルはそれなりに好評だったみたいだし、プロダクションからのスカウトもいくつあつたんだろ？」

「うん。そう」と小春が言った。

先生はまた一口コーヒーを啜った。

「きみたちには言ってなかったけど、実は、俺を通してきみたちに近づこうとしたプロダクションもあつたんだよ。まあ、一応、お母さんにそのことをお知らせしたら、断ってくださいって言われたんだ。お母さんはきみたちにはこのことは内緒にしておきたかったみたいだけど、俺はちゃんと知らせておこうと思って。きみたちの御両親が心配する気持ちもよくわかるんだ。でも、正直なところ、俺は、やっぱりきみたち自身が考えて決めたらいいと思う。小春と日和は確かにまだ子どもなんだろうけど、あれだけ踊れるんだからさ。今あれだけ踊れるんなら子どもも大人もないんじゃないの？ それに、才能ってやつは人に見せてこそ磨かれるってところがあるんじゃないかな。きみたちよりテクニクがあるダンサーはいくらでもいる。でも、たぶん、いいダンサーにはテクニクだけじゃなくて、サムシング・エルスがあるんだよ。踊るだけでのその場の空気を変えてしまう……っていった類のね。それが小春と日和にはあるように僕は感じてるんだ。ただその力をきみたちがいつまでキープできるのか、それは誰にもわからない。テクニクとはまた別ものなだけに、す



ごく微妙なものなんじゃないかって気がするんだよ。ふわふわ天から舞い降りてきて、今はたまたまきみたちのからだのあたりに漂っているけど、いつかまたふわふわどこかへ飛び去ってしまうものなのかもしれないしね。きみたちのお母さんは、きみたちがデビューするかどうかについて、もっと大人になって、また機会があれば……って言ってたけど、そんなもん、あるかどうかわかんないからな。チャンスって、いつでもあるものじゃないし、こちらの準備ができるまで待つてくれるものでもないし、ましてや何年先をお願い、なんて予約できるものでもないんだよ」

わかってているのかいないのか、小春はしかつめらしい表情で、何度も大きくうなずいた。

「でも、だからと言って、今しかチャンスはないかも、って、がつがつ食いつく必要もないと思うんだよ。本当は、今そうしたくない、って感じてるのに、今やらなきゃできない、って慌てふためいても、うまくいくもんでもないだろうからね。やっぱ、無理しちゃいけないと思うんだ。結局さ、やりたいときにやりたいことをやるのが一番だって気がするんだよね。自分の中にあるエネルギーを素直にまっすぐ前へ飛ばしていいこうと思ったらさ」

※<sup>ずし</sup> 逗子の駅に着いたときには七時近くになっていた。

うちへ戻る前に長沼さん宅に寄り、軽く夕食をごちそうになり、祖母と共に帰宅した。一日長沼さん宅で遊んでいた、

※<sup>うそ</sup> という嘘を、父も母も微塵も疑っていないようすだった。小春も私も観てきたばかりのアステアについて母に語り、どんなに彼が素晴らしいダンサーか、という話で一緒に盛り上がりたかったけれど、本当のことを言ったら叱られるのはわかりきっていた。ついうっかり口を滑らさないうちにと、その夜はさっさと子ども部屋に引きあげて、二段ベッドの上と下に分かれて横になり、おやすみ、また明日ね、と声をかけ合って目を閉じた。

と、その途端に――あれやこれやの映像が闇の中に浮かび上がってきた。

傘を片手に闘牛士の真似をして踊っていたアステア。真つ赤なイヴニングドレスを身につけて優雅に階段を降りてきたオードリー・ヘップバーン。雨の中でびしょ濡れになりながらも幸せそうな笑顔で歌っていたジーン・ケリー。次から次へと印象的だったシーンが断片的に浮かんで消えて、すぐく疲れていたはずなのにいつこうに寝つけそうになかった。いつもなら、耳をすませば、微かに波の音がして、その単調な音に身を任せていると、自分でも気づかないうちに眠りに落ちていくのだけれど、その夜は音楽が――オードリー・ヘップバーンの愛らしい歌声や『雨に唄えば』のリフレインや陽気なオーケストラの調べが頭の中で鳴り響き、ちっとも静寂が訪れてくれないのだ。

(野中 柊『小春日和』(集英社)より。)

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

〔注〕

- ※ アステア 有名なダンサー、男優。
- ※ オードリー・ヘップバーン 有名なダンサーが上手な女優。
- ※ ジーン・ケリー 有名なダンサー、振付師、男優。
- ※ 逗子 神奈川県三浦半島の付け根に位置する市。
- ※ 長沼さん 小春と日和がよく行き来をしている祖母の友人。
- ※ 嘘 母親に話をする時映画好きの母も付いてくると思い、先生と三人で行きたかった二人は嘘をついて出かけた。
- ※ 母 母はアステアの大ファンである。
- ※ リフレイン 音楽の曲の一部の繰り返し。

問一 二重傍線部A「まくしたてた」、B「気のない」の本

文中での意味として最も適切なものを、あとの①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A まくしたてた

- ① 続けざまに勢い激しく言った
- ② ゆっくりわかりやすく言った
- ③ 怒ったような口調で言った
- ④ 相手の言うことを無視して言った

B 気のない

- ① 笑いが無い感じの
- ② やさしさが無い感じの
- ③ 関心がない感じの
- ④ 元気が無い感じの

## 問二

傍線部1「わからなかったけれど、わかる気がした」とありますが、これはどのような気持ちですか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 先生に「わかるだろう？」と言われ、本当はわからなかったけれど、先生に悪いと思い、わかる気にならなければと思ったということ。
- ② 先生に「わかるだろう？」と言われ、はっきりとはわからないけれど、先生が言いたいことはぼんやりとわかるということ。
- ③ 先生に「わかるだろう？」と言われ、しっかりとわからないけれど、先生が映画が好きだということとは伝わってくるということ。
- ④ 先生に「わかるだろう？」と言われ、ほとんどわからなかったけれど、ダンスが素晴らしいということとはわかっていてということ。

## 問三

傍線部2「あんまり気にしないで聞くだけ聞いてくれたらいいから」とありますが、桜井先生はなぜそのように言うのですか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 自分が話す大人の世界の事情は今の二人には理解は難しいだろうと考えることから。
- ② 自分がいくら話をしても物事を最後に決めるのは二人の気持ち次第だと考えることから。
- ③ 自分がこれから話をする内容に対して反発があるかもしれないという気持ちがあるから。
- ④ 自分でも話す内容についてまとまっていけないので伝えきれないという気持ちがあるから。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

#### 問四

傍線部3「私たちに問いかけているようでいて、独り言みたいな物言いだ」とありますが、なぜそのような物言いになったのですか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 小春と日和には、話がきくと伝わらないだろうと思っただから。
- ② 内容が難しいので、話すべきか迷いながら話していたから。
- ③ 自分でも疑問に思う点があり、強く主張できなかつたから。
- ④ 話す内容を一つ一つ考えて、かみしめるように話したから。

#### 問五

傍線部4「いつかまたふわふわどこかへ飛び去ってしまふもの」とありますが、それは何ですか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 観る者をひきつける存在感。
- ② 何かするのに良いタイミング。
- ③ 長い時間をかけて築いてきた技術。
- ④ その場に漂うえたいの知れないもの。

#### 問六

傍線部5「チャンスって、いつでもあるものじゃない」とありますが、桜井先生は小春と日和のデビューについてどのように考えていますか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① ダンスについて話しているうちに、自分のダンスの指導についても考えさせられ、指導の成果を確かめるためにもデビューしてほしいこと。
- ② 才能は伸ばすべきであり、人に見せてこそ磨かれるものなので、大人の言うことを素直に聞いて今のチャンス逃してほしくないこと。
- ③ 小春と日和はまだまだテクニク的にも上達する可能性があるので、無理はしないで大人になってから機会を待った方がよいこと。
- ④ チャンスはいかすべきであるが、外部の事情で決めるのではなく、自分たちがダンスをやりたいと思う気持ちを大事にしてほしいこと。

## 問七

傍線部6「あれやこれやの映像が闇の中に浮かび上がってきた」とありますが、このときの気持ちの説明として、最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 今日一日の出来事を振り返って、映画のダンスシーンと先生の言葉との関連を考えて、自分はもっと練習をしなければという気持ち。
- ② 今日見た映画の印象的なシーンと先生の話を思い返し、ダンスに対する気持ちにつき動かされて、ただ無性に踊りたいという気持ち。
- ③ 今日一日の出来事を父母には秘密にしておいているために、よりいっそう昼間見た映画のわくわくした場面に興奮している気持ち。
- ④ 昼間見た映画のダンスシーンと先生から聞いた話を交互に思い出しながら、ダンスというものを深く考えていきたいという気持ち。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)





